

日積サーベイ



生島氏

設計しながら概算コスト把握

年は設計段階におけるコストコントロールの要望が拡大し、ユーザーからはBIMモデルを利用し、設計初期段階からコストコントロールできる機能はないかとの問い合わせが増えていた

「この背景には、より早い段階からコストを把握したいという発注者の思いが根底にある。設計を進めながら概算コストを導くことができれば、的確なコストマネジメントが実現でき、そのプロセスの中でBIMモデルを使うことになれば、生産効率の側面だけでなく、BIM普及の側面でも広がりが出てくると期待している」

日積サーベイ(大阪市)が積算ソフト販売の40年の節目を迎えたことを機に、BIMデータを活用したコストマネジメントツールの切り札として、BIMアドイン概算システム『COST-CLIP』を2022年1月にもリリースする。20年11月に開いた3次元建築積算システム『HEAIOΣ』(ヘリオス)の最新版説明会で初めて構想が発表され、ユーザーである設計事務所やゼネコンから大きな反響を呼んだ。BIMソリューション部リーダーの生島淳平氏に販売の狙いと今後の方向性を聞いた。

——開発の背景は

「当社は積算システムメーカーとしてどこよりも早くBIMデータを利用した積算の研究・開発を進めてきた。今までのBIM連携積算は実施設計フェーズを意識した研究・開発が主体だったが、近

「開発の背景は」
「当社は積算システムメーカーとしてどこよりも早くBIMデータを利用した積算の研究・開発を進めてきた。今までのBIM連携積算は実施設計フェーズを意識した研究・開発が主体だったが、近

年明けにBIMアドイン『COST-CLIP』

「大きくは2つある。1つは設計で利用中のBIMソフト上で動作し、リアルタイムで概算コストが把握できる部分。そして、もう1つはHEAIOΣが得意としている集計機能・明細機能を組み込んだアドインシステムとなる点だ」



『COST-CLIP』動作イメージ

「これをえば、設計初期段階に概算コストをリアルタイムに算定でき、設計プランが変更された際にも瞬時にコストをつかめる。設計事務所やゼネコンからは設計を進めながら概算コストを把握したいとの要望が以前からあった。これによってBIM積算連携の普及につながる一步にもなると考えている」

「対応するBIMソフトは国内でもっともよく使われている『Revit』『ArchiCAD』の2製品を対象とした。第1弾として、一番手間が掛かる内外装版を先行してリリースする。これにより内装数量(床・中木・壁・天井・廻縁)、間仕切数量、外装数量(外壁・屋根)、建具の概算コストを把握することができ」

——販売時期は

「現在は、パイロットユーザーとともにβ版の検証を進めており、集まった意見を踏まえて、22年1月をめどにリリースしたいと考えている。また、22年夏にも第2弾のリリースを予定しており、今後継続して機能の追加や改良していく方針だ」

「建築BIM推進会議が本格化し、プロジェクトの官民を問わずBIM導入の動きが一気に高まり



コスト算出までの流れ

始めたことで、BIM積算連携の流れは広がりつつある。COST-CLIPはBIMへのつなぎ役として、BIM積算連携への流れをさらに加速させる存在としても期待している」

「こと11月19日には最新版『HEAIOΣ2022』を解説するオンラインセミナーを開く中で、COST-CLIPも紹介する予定だ。BIMソフトからワンクリックで概算コストを算出できる効果をぜひ知ってもらいた